



# AT-TQ2403EX リリースノート

この度は、AT-TQ2403EX を買いあげいただき、誠にありがとうございます。  
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。  
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 3.3.0

## 2 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **3.3.0** には、以下の制限事項があります。

### 2.1 NAP (Network Access Protection)


NAP (Network Access Protection) 環境で無線クライアントから本製品に接続しているとき、ネットワーク障害や本製品の電源断などによる無線クライアントの切断が起きた場合、障害の復旧後に再度同じログイン名で接続を試みると RADIUS サーバー (Windows Server 2008) の認証に失敗します。Windows Server 2008 にドメイン名を含めた UserID を設定するとこの現象は発生しません。

### 2.2 イーサネット設定

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「イーサネット設定」](#)


「イーサネット設定」画面の「無線 LAN からの本体宛アクセスの禁止」を「有効」にしても、無線クライアントからの SNMP SET が可能です。「SNMP」画面の「SNMP リクエストの送信元を制限」を有効にし、不特定の無線クライアントからの SET を回避してください。

### 2.3 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

「バースト時の速度制限」に「速度制限」で設定した値以下の値を設定できてしまいます。


### 2.4 VWN

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VWN」](#)

- 「WPA エンタープライズ」と「ダイナミック VLAN」を併用している場合、無線クライアントに VLAN 間のローミングが発生すると無線クライアントとの接続が切断されません。無線クライアントが再接続するために無線クライアントは、アクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- IEEE 802.1X、WPA エンタープライズのブロードキャストキーとセッションキーの更新が同一のタイミングで実行されます。

---


## 2.5 クラスター

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスター」](#) / [「アクセスポイント」](#)

クラスターを構成している場合、共有（同期）している設定の変更はクラスターメンバー（本製品）のうちの1台だけを使用してください。クラスターメンバーの間で設定の同期が行われている間に、設定に使ったクラスターメンバー以外の設定画面にアクセスすると、まれにアクセスしたクラスターメンバーが再起動することがあります。再起動が発生しすると、再度クラスターメンバー間で設定内容の同期が始まります。この同期が完了するには、最大30分程度かかります。再起動が発生した場合は、30分以上経過してから本製品の設定画面にアクセスしてください。

---


## 2.6 セキュリティー

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「セキュリティー」](#)

- 「セキュリティー」画面や、「VWN」画面の各VWNのセキュリティーの「IEEE802.1x」「WPAエンタープライズ」において、RADIUSキー（プライマリー）を空欄に設定するとRADIUSサーバーへの問い合わせに「secret」を使用しますが、セカンダリーのRADIUSキーを空欄にすると「secret」が使用されません。
- 「セキュリティー」画面の「WPAパーソナル」または「WPAエンタープライズ」でWPAバージョンを「WPA2」「WPA」のいずれかまたは両方、暗号スイートを「CCMP（AES）」に設定すると、無線クライアントが本製品に接続してから1時間ほどで、その無線クライアントとの接続が切断されることがあります。無線クライアントが再接続するように、無線クライアントはアクセスポイントに自動的に接続する設定にしてください。
- 「セキュリティー」の「モード」を「WPAパーソナル」から「スタティックWEP」に変更し「適用」ボタンをクリックしてもその設定内容が動作に反映されません。「適用」ボタンのクリックにより画面が再表示された後、もう一度「適用」ボタンをクリックするが、本製品を再起動することにより設定が動作に反映されます。

---


## 2.7 イベント

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

DFSによるチャンネル変更の際に、誤ったチャンネル番号がいったフレームを送信することがあります。また、「イベント」ページに誤ったチャンネル変更通知のログが表示されます。

---


## 2.8 送信/受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信/受信」](#)

「送信/受信」画面で表示されるスループットの値が正しくありません。

---


## 2.9 QoS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「QoS」](#)

cwMin（最小コンテンツウィンドウ値）とcwMax（最大コンテンツウィンドウ値）に同じ値を入力することができます。値を変更する場合、cwMin < cwMax となるように入力してください。

---


## 2.10 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

ブロードキャストやマルチキャストのパケットの送受信で ifInNUCastPkts、ifOutNUcastPkts ではなく ifInUcastPkts、ifOutUcastPkts がカウントアップします。

---

## 2.11 設定のリストアとバックアップ


 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「設定」](#)

[「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- バックアップ、リストア、アップグレードにおいて、設定ファイルやファームウェアファイルのフルパス名が 254 文字までしか入力することができません。
- バックアップした設定ファイルをテキストエディターなどで編集した後、本製品にリストアしないでください。

---

## 2.12 ファームウェアのアップグレード


 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

- ルーター経由でファームウェア更新を行うと、動作状況を把握できなくなる場合がありますが、約 4 分後にはファームウェアが更新され正常に起動します。設定を続ける場合は、再度本製品の Web 設定画面に接続してください。
- ファームウェアファイルの転送中に、UTP ケーブル抜けなどにより転送が不完全な状態となった場合は、本製品を再起動した後、再度アップグレードを実行してください。再起動を行わないと、アップグレード中にメモリ不足となり、リポートしてしまうことがあります。


---

## 2.13 Web 設定画面


- 「無線」画面の「ステータス」ラジオボタンを「オン」→「オフ」→「オン」のように変えると、初期状態ではグレイアウトしていた「ブロードキャスト／マルチキャスト速度制限」の「速度制限」と「パースト時の速度制限」の入力フィールドが入力可能な状態に変わります。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)


- 「イベント」画面の「ログのリレー」チェックボックスを有効にした後で無効にすると、入力可能だった「リレーホスト」と「リレーポート」フィールドがグレイアウトします。これらのフィールドに値を入力するときは、「ログのリレー」チェックボックスを有効にした状態で行ってください。

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「イベント」](#)

- VWNのセキュリティが「WPA エンタープライズ」の場合、「WPA バージョン」の「WPA」のみが有効となっているときに「WPA」のチェックを外すことによって自動的に「WPA2」が有効になると、「事前認証を有効にする」がグレイアウトして設定できなくなります。その場合は「WPA」「WPA2」の両方を有効にし、「事前認証を有効にする」の設定を変更してから「WPA バージョン」を設定してください。

 **「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「VWN」**

- 「VWN」画面の各 VWN のセキュリティ「WPA エンタープライズ」で「事前認証を有効にする」を無効にすることができません。

 **「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「VWN」**

### 3 リファレンスマニュアルについて

---

最新のリファレンスマニュアル（613-001582 Rev.A）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>